

いの流水俳壇

「当季雑詠」

特選

川辺りのカフェ 確かなる朝曇り

東谷 晴男

〔評〕「カフェ」とは（コーヒー）の意。主としてコーヒーや、その他の飲料を売っている店のことである。早朝川沿いにあるコーヒー店に行き、窓に広がる景色に目をやると、一面朝靄がかかり、空まで曇って見える。これが季語「朝曇り」である。この朝曇りは、九時頃にはたちまち晴れて、晴れた後の暑さは格別で、特に近年の温暖化も加わり、汗まみれとなる日が思いやられる。コーヒー店から見た情景が、瞬時に朝曇りへと展開する。作者の熟達した作句力とその実力のさすがさ、俳句への情熱をひしひしと感じる。

転ばない約束 交わす梅雨湿り

川村 博子

〔評〕人は皆、八十歳を過ぎると次第に生理機能が衰えて、老化現象が起き、視力、聴力、記憶力の低下が始まる。私自身もその中の一人であり、確実に進む老化に、どうにもならないもどかしさの昨今である。揚句「転ばない約束」は、親しい友人にはいつまでも元気でいてほしい。また今は梅雨の最中で、滑りやすい時期でもあるお互いに足元には特に気を付けて、転ばないようにと約束をした。その具体的な表現に、やさしい注意と気遣いが見える。「転ばない」と「梅雨湿り」との的確で巧みな取り合わせの光る作品。

かんかんの麦稈帽子 畑仕事

森岡 照月

〔評〕あと一年で八十路となる作者。まだまだ元気で、夏野菜である南瓜、茄子、胡瓜、トマト等の栽培をし、その手入れに余念がない暑くなった今日は、少し頭髪の薄れた頭を守るため、昔からある固く編んだつば広の麦稈帽子を被り、慣れた手つきでいそいそと、畑仕事に精を出すその姿が目に見えるよう。成長の早い夏野菜。日々の手入れの甲斐あって、出来ばえは上々。帰りにはそれぞれ実った野菜を収穫し、至福の喜びを籠に入れて持ち帰る。夏の季語「麦稈帽子」が効果的で、若やぎと元気で土に親しむ幸せを感じる一句。

入選

はじめての補聴器の違和梅雨寒し

大樽や明治の匂ふ梅雨の土間

晴れ渡り筒鳥の声風に乗る

八月の夕陽斜めに窓に入る

二句抄

推敲の定まらぬ日の日雷

水洗ふ音六月をいかしめぬ

枇杷すする雫も種も手に受けて

百合の香や夜は別室に移しをく

歯応えも味の決めての夏野菜

夕暮れの庭に一筋河鹿笛

螢火や卒寿の兄貴遂に逝く

二房のモンキーバナナ熟れを待つ

七夕や筆に戸惑う外国人

今もある屋根つき木橋風涼し

弟の逝きて一年百合手向く

青芝の中の草抜く昨日今日

朝食時窓より入る風涼し

獅子唐と茄子を炒める夕まぐれ

句友逝く遺作となりし青葉坂

漬菜桶座る土間より梅雨深む

次題「当季雑詠」

締切／毎月1日

投句先 教育委員会事務局

いの町170011 ☎893-1922

今のごども川柳

空高く 大きい花が まいあがる

伊野小 6年 山崎 萌依

〔評〕川柳は17音字に思いを省略し、なおかつ思いが伝わる言葉の選択が必要です。この句は「大花火がきれい」を「大きい花」と省略し花のように美しい大きな花火を上手く表現しています。

一年生 そろそろ学校 なれたかな

枝川小 6年 福原 花菜

〔評〕新入生は学校の雰囲気慣れ、友達が出るまでは希望と不安でいっぱいです。こんな思いやりのある先輩のいる学校は、毎日が楽しい事でしょう。優しさあふれる良い句です。

ランドセル 毎日いっしょで ありがとう

神谷小 5年 濱田 龍志

ラッコウキ そらを見るのが いいきもち

長沢小 1年 山中 大聖

かきごおり 夏のあつさも とけていく

伊野小 6年 増田 丈浩

なつやすみ あめあめははれはれ たのしいな

伊野小 3年 栄枝 那祇

ゆうしようで みんなおいぬく プレッシャー

伊野小 3年 町田虎汰朗

ふうりんが すずしげな顔 うらやましい

伊野小 6年 佐竹 未羽

海の中 泳ぐ魚は すずしそう

伊野小 6年 南海 勇志

新しい クラスになって うれしいな

枝川小 5年 尾崎 遥

「ごども川柳」は町内全小学校の児童のみなさんを対象に募集しています。次回提出締め切りは9月10日(火)です。たくさんの方のみなさんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会のみなさんにお願いしています。